

北海道師範塾 塾頭通信

「教師の道」

第906号 平成27年3月31日

ノーゲームデー

北海道教育委員会や北海道PTA連合会等で構成する「北海道子どもの生活習慣作り実行委員会（実行委員会）」は、

- ・ネット利用も含めた望ましい生活習慣の確立
- ・ネットトラブルの根絶
- ・ネット利用に関わる心と体の健康課題の解決

を目指して「どさんこアウトメディアプロジェクト」に取り組んでおり、その中で、道民に対し「ノーゲームデー」の設置を含めた3つのアクションプランを提案しています。

「ノーゲームデー」という言葉が独り歩きして、賛否の様々な声が出ているようですが、まずは、3つのアクションプランの概要を紹介しておきます。

*アクション1

毎月の第1、第3日曜日を「ノーゲームデー」として設定する。

*アクション2

ネット利用も含めた望ましい生活習慣づくり等に関し、保護者や児童・生徒に対する学習機会の提供

*アクション3

保護者や児童・生徒が望ましいネット利用を進める事が出来るよう、様々なアイテムの開発・作成

全国学力状況調査の結果から、小学生や中学生の中には1日3時間以上もゲームをしている子ども達がいるという事に驚かされますし、ネットを利用するために睡眠時間や勉強時間を犠牲にしている子ども達が少なくない現実を見れば、「実行委員会」が提唱するこれら3つのアクションプランは、いずれも、子ども達にとってネット利用も含めた望ましい生活習慣を確立する上で当然の取り組みだと思えます。

ところが、アクション1の「ノーゲームデー」に対して、

- ・ゲームを否定しているのか
- ・ゲームをしている人でも頭がいい人はいる。
- ・子どもの自由を奪う事は良くない
- ・必要なのはゲームを通じて親子が触れ合う機会

といったような様々な批判が噴出し、波紋を広がっているというので、こうした状況については正直驚きを隠せません。

一口にゲームといっても、パソコンやスマートフォンを使ったゲームだけではなく、囲碁や将棋、トランプ等様々な種類があるにもかかわらず、「ノーゲームデー」という表現はゲーム全体を一括りにして否定しているように感じる、といった批判的意見も分からなくはありませんが、「実行委員会」の「ノーゲームデー」設定の趣旨を読む限り、それは過剰な反応だといわざるを得ません。

「実行委員会」は、「ノーゲームデー」設定の目的を「子ども達に望ましい生活習慣を確立させるため」としており、ゲームそのものを否定している訳ではありません。しかも、月に第1、第3日曜日の2日だけです。

私も、ゲームそのものを否定するつもりはありませんが、例えば、人間同士が殺し合う等非常に残酷なゲームは、幾らバーチャルな世界とはいっても子ども達の心の発達に良い影響があるとは到底思えません。そういう意味では、技術的には難しいかも知れませんが、映画のレイティングシステムのように、利用出来るゲームに一定の縛りかけるという事もあって良いのではないかと思います。



いずれにせよ、「ノーゲームデー」の導入は、親子でゲームをする時間やネットの利用について話し合うきっかけになるはずで、そうした話し合いを通じて、親子のコミュニケーションを深める事も出来ると思います。

親子の会話無くして家庭でのルール作りは出来ません。そういう意味では、「ノーゲームデー」は親子が会話するための打って付けの材料といえるでしょう。

また、「ノーゲームデー」を設定しても、その日は1日家でゴロゴロしているのではもったいないですから、家族みんなでキャンプに行くとか読書や映画鑑賞をする等、自然体験や家族間のコミュニケーションを深める機会にして欲しいというのが、「ノーゲームデー」の提案でもあります。

中には、家庭でのルール作りを促進するためとはいえ、何故「ノーゲームデー」なのかとお思いの方もいるかも知れません。

それは、例えば携帯電話の使用について何らかのルールを決められているかを子ども達に聞いたところ、「決められている」と答えたのは、小学生73.5%、中学生64.8%、高校生47.7%という結果となっており、フィルタリングの設置

状況についても、「フィルタリングを設置している」と答えたのは、小学生45.8%、中学生44.1%、高校生に至っては31.1%に過ぎない（平成24年3月道教委「携帯電話の利用に関する意識等調査結果」から）というように、家庭でのルール作りは必ずしも進んでいるとはいえないからです。

更に、例えば中学生の生活態度を見ると

- ・ 1日に3時間以上ゲームをしている生徒の割合 24.1%
- ・ 1日に3時間以上テレビ等を見ている生徒の割合 43.8%
- ・ 1日に3時間以上インターネット等をしている生徒の割合 23.1%
- ・ 1日の家庭での勉強時間が30分未満の生徒の割合 19.4%

（以上、平成26年度全国学力調査結果から）というように、望ましい生活リズムとはかけ離れた日常を送っている子ども達が少なくありません。こうした状況に、保護者初め我々大人達はもっと危機感を持つべきです。

「ゲームをしている人でも頭がいい人はいる」というような議論に付き合うつもりはありません。そんな事は当たり前ですが、しかし、幾ら子どもの自主性を尊重するといってみても、ゲーム漬け、ネット漬けの中で睡眠時間も勉強時間も全く足りない生活を放任したままでは、子ども達の学力低下や体力低下を避ける事等出来るはずもありません。

（塾頭：吉田 洋一）